

「あなたの妻で 幸せでした」

この二年間、私は宝物のような時間を過ごしてまいりました。

平成〇〇年五月、勤務先で倒れた夫。以来、病床での闘病生活を余儀なくされ、医師からは療養施設への入所を強く勧められたものの私はある思いを胸に夫と自宅へ戻りました。

それは：同年一月、義父を見送るまで「妻業をしてこなかつた」という後悔。それまで嫁としての仕事ばかりに専念し、妻として夫を支えられずになりました。夫は幼少期に母親を亡くし、父親と妹のために生きてきた心優しき人でした。「これからは、どんな体となつても住み慣れた我が家で、妻として添い遂げたい」：その一念を夫はきちんと受け止めてくれました。わざかに動く右手で唇で表情で「寝たきりになつたけれど、今が一番幸せだよ」と繰り返し伝えてくれたことに、私はどれほど救われたことでしょう。

別れを迎えた今、つないだ手ははなれても心はいつまでも寄り添っていますから、笑顔で見送りたいと思います。

夫〇〇〇〇は、平成〇〇年〇月〇日、〇歳にて生涯をとじました。共に歩み、支えて下さった皆様へ、生前賜りました多くのご厚誼に深く感謝申し上げます。本日のご会葬、誠にありがとうございました。
略儀ながら書中をもつて、ご挨拶申し上げます。

平成〇〇年〇月〇日

